

# 令和7（2025）年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人 真和会  
幼保連携型認定こども園 菜の花こども園

## 1. 教育・保育理念と方針

見まもる・育てる・学びあう

力強く元気いっぱいに育ってほしい

「人は人の中で育ち、人の育ちにはより良い環境が必要である」 私たち菜の花こども園はこどもたちの育ちには、人と環境を大切に、次の3つの要素をバランスよく育てることを本園の教育・保育の理念としています。『知』・・・いかに社会が変化しようとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、物事を判断し、行動し、課題を解決する資質や能力などの自己教育力 『徳』・・・他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性 『体』・・・たくましく生きるための健康や体力 こどもは「ありのまま」を受け入れられているというところから人生がスタートし、豊かな自然の中で好奇心や探究心いっぱいに友だちと共感しあって日々の活動を繰り返していくことのできる環境が、人間的な情緒やコミュニケーションの力を育てられるための環境として理想であると考えています。 私たちは、こどもたちにとっては「遊び・学ぶ楽しさ」を、教職員にとっては「教え・育てる喜び」を、保護者にとっては「楽しく、育てる生きがい」を実感できる教育・保育を目指します。

## 2. 評価項目別の達成及び課題状況

項目	評価・課題
本園の教育・保育目標の認識度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な研修の実施と意見交換をする中で、課題を共有し本園の教育・保育の目標に基づいた保育内容が展開された。</li> <li>・幼児教育のカリキュラムは、遊びを通して子どもの学びに繋がっており、更に学びの展開が広がるよう園全体で考えていく必要がある。</li> </ul>
乳児・幼児・延長保育教諭間の連携	<p>各クラスの進捗状況や情報共有、報告の場を通して、職員同士の連携や共通認識に繋がった。</p> <p>担任と延長保育教諭との申し送りの際に、記録として残している為、確実に伝達を行い、振り返りも出来ている。</p> <p>引き続き、報・連・相を徹底していく。</p>
保育・教育内容	<p>「学びは遊びから」を基に計画を立てカリキュラムを実施した。</p> <p>現場発信を重視し、様々な意見交換を職員同士で行い「子どもにとってのよい環境」を中心に考え、計画・実施・振り返りを行っている。</p> <p>研修などを通して全体で考える事で、自らの保育を振り返ったり園全体として意識を高めることに繋がった。</p>
各職種間の連携	<p>食育グループを中心に、栽培・クッキング・給食室の見学を行い、食への関心が高まった。また、給食職員と一緒に給食を食べる事で、給食の先生への感謝の気持ちも育めた。</p> <p>会議での進捗状況報告・アレルギー児面談を通して情報共有や個々の食事形態に応じた丁寧な対応が出来ている為、引き続き継続していく。</p>
研修	<p>研修を通し、対応の仕方を再確認することでより統一する事ができた。</p> <p>また、自らの保育を振り返りながら、自己課題や園全体の課題を認識し、職員で意見を出し合うことで課題の改善に繋がっていった。</p>
安全への取り組み	<p>日々、人数把握の徹底、施錠確認、危険箇所の確認を行えている。</p> <p>ヒヤリハットや気づきを共有出来ているので、職員の意識改革や具体的な取り組みを行い、より安心できる保育の現場に努めていきたい。</p> <p>また、保育中に実際に地震が発生したことで、より実践的なマニュアルの見直しに繋がった。</p>
特別支援	<p>場面に応じて、個別の関わりを必要とする事が増えてきた。職員同士で情報共有・意見交換をおこなっている。</p> <p>定期的に専門機関と関わる事で、課題に対する必要な援助や手立てを知ることが出来た。職員の学びを深め、個々の関わり方の統一や連携の必要性を感じている。</p>
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談を期間問わず窓口を開いている為、保護者のタイミングで相談しやすい環境に繋がった。保護者支援(やすら木)を含め、より多くの方に身近に感じてもらえるような場所作りに努めていきたい。</li> <li>・製作物掲示、写真掲示、保育参観を通して、親子での会話の充実に繋がった。引き続き、保育・教育の見える化を工夫していきたい。</li> </ul>

地域子育て支援	<p>同年齢児の交流や遊びを通して、クラスや園の雰囲気を知ってもらう機会となった。また、クラスに入る事で、同年齢児の生活の手立てを知る機会となり、家庭での子育てに繋げるきっかけとなっている。</p> <p>自園の子育て支援をより知ってもらう為に、情報の発信を工夫していきたい。</p>
幼小連携	<p>・公開保育を通し、現状の子どもの姿を知る事で、架け橋期における課題への取り組みを共有する事ができた。</p> <p>また、定期的な幼保小での会議等で意見交換を行い、より連携が深まった。双方の教諭が見学、意見交換することを引き続き行いたい。</p> <p>・小学生との交流や公開保育を増やした事で、小学校の先生との交流が深まり、学校への関心が高まった。</p>
取り組むべき具体的な課題	<p>『生活習慣』 — 子ども達自身が気づき・考え・行動に移せるような関わりや環境構成の工夫。</p> <p>『遊び』の環境 — 遊びの充実性を図り、自ら遊びを発展させ遊び込める環境作り。</p>
総評	<p>保育・教育の見える化を図ることで、家庭と園が同じ方向性を持ち一緒に歩めるよう取り組んできた。子ども達の「やってみよう」を共に見守りながら、安心感をもってもらえる場所作りを目指していく。</p> <p>「学びは遊びから」を基に、現場発信を重視し、意見交換を行いながら「子どもにとってのよい環境」を展開していけるよう園全体で考えることは評価できる。更なる遊びの充実性を図り、自ら遊びを発展させ遊びこめる環境づくりに努めていきたい。</p> <p>園児や保護者、地域の子育て支援を必要とされる世帯に、必要とされるサービスの充実を図る為にも、情報の発信を工夫し、自園の子育て支援をより知ってもらう活動の認識が高まっている。</p> <p>引き続き、幼児の教育・保育に携わる者として、些細な変化・発信、危機管理能力の向上といった、よりレベルの高い「気づきの力」を身に付けていくことが園全体としての課題である。</p>

令和8年2月10日

諫早市仲沖町 543 番地 2  
 社会福祉法人 真和会  
 菜の花こども園 園長 土井淳一